

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月14日

【四半期会計期間】 第61期第3四半期
(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)

【会社名】 カシオ計算機株式会社

【英訳名】 CASIO COMPUTER CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 櫻尾 和宏

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区本町1-6-2

【電話番号】 03-5334-4852

【事務連絡者氏名】 取締役 専務執行役員(財務・IR担当) 高木 明德

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区本町1-6-2

【電話番号】 03-5334-4852

【事務連絡者氏名】 取締役 専務執行役員(財務・IR担当) 高木 明德

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期 第3四半期 連結累計期間	第61期 第3四半期 連結累計期間	第60期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (百万円)	261,817	232,581	352,258
経常利益 (百万円)	33,335	14,707	41,069
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	24,811	10,634	31,194
四半期包括利益 又は包括利益 (百万円)	21,416	9,462	18,703
純資産額 (百万円)	215,106	192,283	202,111
総資産額 (百万円)	379,139	343,734	368,454
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	94.94	41.64	119.72
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	93.19	40.85	117.50
自己資本比率 (%)	56.7	55.9	54.9

回次	第60期 第3四半期 連結会計期間	第61期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日
1株当たり 四半期純利益 (円)	35.96	16.73

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における内外経済は、米国では新政権への期待感もあり底堅く推移した一方、中国及び新興国では成長鈍化による下振れ懸念が強まり、先行き不透明な状況で推移しました。

この環境下、当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,325億円（前年同四半期比11.2%減）となりました。

損益につきましては、203億円の営業利益（前年同四半期比39.1%減）となりました。また、経常利益は147億円（前年同四半期比55.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は106億円（前年同四半期比57.1%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

コンシューマの売上高は、1,982億円（前年同四半期比12.2%減）となりました。時計は最強ブランドである「G-SHOCK」の高価格帯ラインアップ拡充と様々なグローバルプロモーション効果により好調に推移しました。また、Bluetooth®でスマートフォンと連携する「EDIFICE」が好調に推移しました。電卓は学校販売強化により関数電卓が好調に推移しました。損益につきましては、257億円の営業利益（前年同四半期比33.9%減）となりました。時計は製品ミックスの改善により高収益性を維持しました。電卓は関数電卓の好調により高収益性を確保しました。

システムの売上高は、278億円（前年同四半期比6.0%減）となりました。損益につきましては、構造改革の影響により22億円の営業損失（前年同四半期 営業損失21億円）となりました。

その他の売上高は、115億円（前年同四半期比13.2%減）、損益につきましては、3億円の営業利益（前年同四半期 営業損失1億円）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当グループ（当社及び当社の関係会社）が対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費は4,709百万円であります。

主な成果は次のとおりであります。

自撮り女子に最適なデジタルカメラ

自撮りの画像だけを判別してスマートフォンに送信するモードを備えた女性向けのデジタルカメラ「EX-ZR70」を開発しました。チルト液晶を立てて撮影し、顔検出した画像のみをスマートフォンに送信できるので、友だちとのお出かけの際など、自撮り・みんな撮りの写真のみをすぐにスマートフォンで確認することができます。

市町村単位の天気情報を表示できるクロック

Bluetooth®により、専用アプリ「CASIO CLOCK+」をインストールしたiPhoneと接続して日本気象協会の天気情報を取得するクロック「DWS-200J」を開発しました。当日の3時間ごとの天気情報、6日間の天気情報を市町村単位で表示。自宅の3時間ごとの天気を音声で案内する音声ガイド機能も搭載しています。天気予報は最大4地点までの天気を同時に表示し、自宅と職場、学校、旅行先など、複数の場所の天気を同時に把握できるので、雨天の備えや日々の服装選びなどに役立てられます。

ゴルフスイングのフォームを計測するウェアラブルセンサー

加速度センサー、方位センサー、ジャイロセンサーを搭載し、腰に取り付けてスイングをすると、前傾・回転・水平の3方向の角度が計測できるゴルファー向けウェアラブルセンサー「CMT-S10G」を開発しました。計測値と体幹の動きを表すグラフィックは、リモート撮影用アプリ「EXILIM Connect for GOLF」及び、再生・分析用アプリ「EXILIM Analyzer for GOLF」をダウンロードしたスマートフォンやタブレットで確認できます。

暗がりのアウトドアでも明るく撮れる高感度のデジタルカメラ

最大ISO51200での撮影が可能な高感度裏面照射型CMOSセンサーを搭載したデジタルカメラ「EX-FR110H」を開発しました。暗がりでも明るい写真が撮影でき、洞窟探検やナイトサファリ、ナイトハイク、キャンプなど暗所でのアウトドアで活躍するデジタルカメラです。有効画素数を190万画素に抑えることで、1画素あたりの面積を大きくし、高感度を実現しています。

アウトドアでの活動シーンを広げるSmart Outdoor Watch

GPSとオフラインで使えるカラー地図機能を搭載した「WSD-F20」を開発しました。従来機同様、アウトドアシーンで役立つ防水性と堅牢な耐環境性能を備えながら、新たに、GPSとオフラインで使えるカラー地図を備え、スマートフォンの電波が届かないアウトドアフィールドや、スマートフォンを手に持てないウォータースポーツなどにおいても単独で活用でき、アウトドアでのアクティビティを幅広く強力にサポートします。

自宅の様々な場所で対話を行いながら学べるデジタル英会話学習機

自宅内で“英語で話す”習慣を身につけることを目的に、毎日話しかけたいくなる親しみやすいデザインを採用した学習機「Lesson Pod」を開発しました。リビングや寝室だけでなく、バスルームやキッチンでも安心して学べるようIPX5/IPX7の防水仕様を採用。対話しながら学べる教材の収録をはじめ、毎日の対話が楽しくなる機能も備えました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	471,693,000
計	471,693,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年2月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	259,020,914	259,020,914	東京証券取引所(市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	259,020,914	259,020,914		

(注) 「提出日現在発行数」には、平成29年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年11月30日 (注)	10,000	259,020		48,592		64,565

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 12,689,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 256,050,200	2,560,502	
単元未満株式	普通株式 280,814		1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	269,020,914		
総株主の議決権		2,560,502	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が2,100株(議決権21個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式86株が含まれております。
- 3 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成28年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) カシオ計算機株式会社	東京都渋谷区本町 1-6-2	12,689,900		12,689,900	4.72
計		12,689,900		12,689,900	4.72

- (注) 1 このほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権10個)あります。なお、当該株式数は「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。
- 2 当第3四半期会計期間末日現在の「自己株式等」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,648	53,528
受取手形及び売掛金	47,843	40,774
有価証券	55,600	50,000
製品	43,082	42,071
仕掛品	6,943	4,762
原材料及び貯蔵品	7,751	8,037
その他	22,871	28,047
貸倒引当金	501	494
流動資産合計	250,237	226,725
固定資産		
有形固定資産		
土地	36,091	35,092
その他(純額)	24,791	23,311
有形固定資産合計	60,882	58,403
無形固定資産	6,309	6,852
投資その他の資産		
投資有価証券	34,407	37,162
退職給付に係る資産	9,113	9,723
その他	7,577	4,939
貸倒引当金	71	70
投資その他の資産合計	51,026	51,754
固定資産合計	118,217	117,009
資産合計	368,454	343,734

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	34,542	29,407
短期借入金	260	136
未払法人税等	4,334	2,074
製品保証引当金	779	791
その他	39,653	37,734
流動負債合計	79,568	70,142
固定負債		
新株予約権付社債	10,033	10,026
長期借入金	67,000	63,000
退職給付に係る負債	1,338	1,237
その他	8,404	7,046
固定負債合計	86,775	81,309
負債合計	166,343	151,451
純資産の部		
株主資本		
資本金	48,592	48,592
資本剰余金	65,058	65,058
利益剰余金	100,041	84,453
自己株式	20,291	13,359
株主資本合計	193,400	184,744
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,781	9,576
為替換算調整勘定	1,844	4,590
退職給付に係る調整累計額	2,774	2,553
その他の包括利益累計額合計	8,711	7,539
純資産合計	202,111	192,283
負債純資産合計	368,454	343,734

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	261,817	232,581
売上原価	145,071	136,673
売上総利益	116,746	95,908
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	27,193	25,213
その他	56,081	50,320
販売費及び一般管理費合計	83,274	75,533
営業利益	33,472	20,375
営業外収益		
受取利息	392	299
受取配当金	312	224
その他	167	161
営業外収益合計	871	684
営業外費用		
為替差損	383	5,765
その他	625	587
営業外費用合計	1,008	6,352
経常利益	33,335	14,707
特別利益		
固定資産売却益	4	762
その他	1,120	73
特別利益合計	1,124	835
特別損失		
事業構造改善費用	-	1,792
その他	377	109
特別損失合計	377	901
税金等調整前四半期純利益	34,082	14,641
法人税等	9,271	4,007
四半期純利益	24,811	10,634
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,811	10,634

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	24,811	10,634
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1,389	1,795
為替換算調整勘定	1,690	2,746
退職給付に係る調整額	316	221
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	3,395	1,172
四半期包括利益	21,416	9,462
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,416	9,462
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	
(会計方針の変更)	法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。この変更が損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 輸出手形割引高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
輸出手形割引高	1,193 百万円	692百万円

2 当グループ(当社及び連結子会社)は、運転資金の効率的な調達を行うため主要取引金融機関と特定融資枠契約を締結しております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
特定融資枠契約の総額	57,100 百万円	57,000百万円
借入未実行残高	57,100 百万円	57,000百万円
契約手数料	55 百万円	34 百万円

(注) 契約手数料は営業外費用の「その他」に含めて表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 事業構造改善費用

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

システム事業の構造改革に伴う、退職関連費用であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
減価償却費	6,870百万円	7,015百万円
のれんの償却額	8百万円	16百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	5,880	22.5	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金
平成27年11月4日 取締役会	普通株式	4,573	17.5	平成27年9月30日	平成27年12月3日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	5,767	22.5	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金
平成28年11月2日 取締役会	普通株式	5,127	20	平成28年9月30日	平成28年12月2日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の金額の著しい変動

自己株式の取得

当社は、平成28年11月2日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が8,394百万円増加しております。

自己株式の消却

当社は、平成28年11月2日開催の取締役会決議に基づき、平成28年11月30日に自己株式の消却を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が0百万円、利益剰余金が15,329百万円、自己株式が15,329百万円それぞれ減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンシューマ	システム	その他	合計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	225,790	29,583	6,444	261,817		261,817
(2) セグメント間の内部 売上高	2	36	6,864	6,902	6,902	
計	225,792	29,619	13,308	268,719	6,902	261,817
セグメント利益 又は損失()	38,899	2,135	138	36,626	3,154	33,472

(注)1 セグメント利益又は損失()の調整額 3,154百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 3,154百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社管理部門に係る費用並びに基礎研究に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンシューマ	システム	その他	合計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	198,232	27,829	6,520	232,581		232,581
(2) セグメント間の内部 売上高	1	24	5,037	5,062	5,062	
計	198,233	27,853	11,557	237,643	5,062	232,581
セグメント利益 又は損失()	25,730	2,238	307	23,799	3,424	20,375

(注)1 セグメント利益又は損失()の調整額 3,424百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 3,424百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社管理部門に係る費用並びに基礎研究に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	94円94銭	41円64銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	24,811	10,634
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	24,811	10,634
普通株式の期中平均株式数(千株)	261,336	255,362
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	93円19銭	40円85銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額(百万円)	4	4
(うち支払手数料(税額相当額控除後)(百万円))	(1)	(1)
(うちその他(税額相当額控除後)(百万円)) (注)	(5)	(5)
普通株式増加数(千株)	4,865	4,874
(うち新株予約権付社債(千株))	(4,865)	(4,874)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 新株予約権付社債を額面金額よりも高い価額で発行したことによる当該差額に係る当期償却額(税額相当額控除後)であります。

2 【その他】

第61期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)中間配当について、平成28年11月2日開催の取締役会において、平成28年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 5,127百万円

1株当たりの金額 20円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成28年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2月14日

カシオ計算機株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 穴戸 通孝

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮原 さつき

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 叙男

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているカシオ計算機株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、カシオ計算機株式会社及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。